保健・体育科

生徒の学習意欲を高めるための授業導入の工夫

飯　島　幸　久

Ⅰ．はじめに

一時間の授業を終えて，体育教官室へ戻り，第一声で「今日の授業は，すばらしかったよ」と仲間の教師に語りかけながらタバコに火をつける

こんな自分が，何年か前には，ずいぶんあったような気がする。現在はというと……こんな自分自身のためにも，日頃の授業から生徒の学習意欲を高めるための工夫を今一度みつめ直してみたいと考えた。「研究」と名前をつけるほど大それた内容にはとてもならないだろうと思いながらも，本校の教師の特権でもある，研究協議会という場をかり，見だしのテーマに挑戦してみた。

> 導入とは，学習に対する構えをつくって，学習の準備をする段階であり，学習活動を支える基礎的条件を整えること，および学習者の学習意欲を喚起することが基本的に重要とされている。学習活動の基礎的条件としては，施設用具・グループ学習計画などがあげられ，すべての児童・生徒が学習活動を可能な限り豊かにすることに留意して整えられなければならない。学習意欲の喚起についての具体的な方法としては，従来より用いられている方法として，その種目に関する歴史や競技会の概要を話したり，実際に教師が「示範」したりして，その種目に対する理解を深めさせることが多くみられるが，その他に，最近では競争やゲームを実際に行わせて，自己の力を確かめ，自分の目標をつかませることによって，学習意欲を喚起し，学習の構えを持たせるような方法が多くとられている。
>
> 「現代学校体育大事典」　P59
> 大修館書店　　松田岩男　他

このように，テーマに掲げた内容の研究は，すでに数多くあり，方法的にはいろいろなものが登場している。（視聴覚機器の使用・教材用具の工夫・問題解決学習 etc）。今回のわが研究グループでは，これらの方法的な手段が整備されたとしても，それを生徒の前に単に示せば，学習意欲が高まるかというと，決してそうではなく，そこには必ず，教師の生徒への働きかけが有効になされなければならないと考えた。この教師の働きかけのうちでも，最も基本と思われる教師の『言葉』に着眼してみた。1時間の授業を方向づける導入部の教師の『言葉』に焦点をしぼって，数種類の事例をひろいだし，考察を加えてみたい。

Ⅱ．今までの授業実践から，導入部分の教師の『言葉』を分類

本校体育科の授業では，集合・整列・はじめのあいさつが，パターン化されている。また，陸上競技のどの教材においても，私の授業では，準備運動として，班ごとにウォーミングアップをさせている。従って導入部の教師の言葉としては，授業のはじめ10〜15分，テープレコーダーに記録したうちの，上記以外で1時間の学習目標を伝える場面を中心に，拾いだし以下のような分類のしかたで集計してみた。そうすることによって，生徒が意欲的に取り組む授業，教師から見て，満足のいく授業をつくりだしている教師の言葉の傾向がつかめるのではないかと考えた。

＜分類のし方＞

> (1)　指示（命令）……学習課題やその順序・方法・留意点などを示す。
> (2)　方向づけ……教材の掲示，及び説明，教具の扱い方，作業の進め方，動機づけをする。
> (3)　助言（示唆）……(1)(2)の発言に反応しない，あるいは誤って受けとめていると思われるときに，説明を求めたり，確認のために問い返したり，示唆を与えたりして学習活動を正しく誘導する。
> (4)　評価（肯定と否定）……発問（発言）に対する反応とその学習活動の結果について，正誤を判断し，また，適否を明らかにして，確かな学習の発展をうながす。
> (5)　はげまし……賞賛と注意などによって学習の意欲づけをする。
>
> 「授業改革事典」　P42〜43
> 第一法規　　東　　洋　他

☆集計結果	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
中1（走り幅とび）	14	17	14	3	5
中3（ハードル）	19	24	15	10	3
中2（走り高とび）	22	16	13	8	0

どの授業においても，(1)〜(3)までが多い。これは，分類のし方として採用した方法が，導入部の言葉に限定したものではなく，1時間の教師の発問についての分類のし方だったためで，先に書いたように分類項目の内容からも，はじめから予想ができたものである。何となく，傾向としてみられそうなものとして，(4)(5)の数値ではなかろうか。中3の授業は久しぶりに私自身満足のいく授業だったことと関連づけるならば，(4)の「評価」の言葉を多く用いることは，効果的であったような気がする。

Ⅲ．生徒にとって，印象に残っている言葉はどんなもの？

(1)　1時間の授業時間の中で

生徒の立場から，導入部の教師の言葉がどの程度，理解され印象として強く残っているものか，素直に知ってみたくて，授業終了後ただちにメモ用紙を配り，『1時間の中で先生の言った言葉で印象強く残っている言葉』を書かせてみた。

10月14日（火）第2限　中2男子　40名

教材――走り高とび

課題「はさみとびのフォームの完成・体のひねりを身につける」

＜導入部の教師の言葉＞

陸上競技大会ご苦労さまでした。中2としてはなかなかよくがんばったんではないかと思う。クラスの対抗としては，B組だったかな優勝したのは。それから，中2の場合は，ゼッケンがなかなか評判よかったよ。AもBもな，なかなか先生たちの評判もよかったです。ハイ，きょうは，ハイジャンプ，はさみとびのフォームを完成させます。このあいだ，言ってきたことは，踏み切り足で着地。それが一番，理にかなった高くとぶためのフォームだということ話したね。で，きょうは，それにライダーキックを加えて，ライダーキックを加えて，体をひねる。ひねることによって，より高くとぶフォームを身につけてもらいます。いいですね（ウォーミングアップ）

立ったままで間隔をとって集まって。ハイ，このあいだの時間にだいぶじょうずにできる人がでてきたな。あれを全員の人が完成させるために，きょうは，高さを，よーあげても1mまで。1mの高さで，まず全員がライダーキックをやれるようにしてください。それから体をひねることね。この2つのことをやります。ハイ，全員，振りあげ足を1度ふりあげて，その場で止めてください（示範）あげたこの足を外にひねってみて下さい。そうすると，バーの方にむけるな。もう一度，いち（示範，生徒もおこなう）ひねって，外へ，そう。にい（同上）ハイひねって，そうそう。さん（同上）ハイようし。前へ来てすわれ。後半20分ぐらいになったら，もうひとつ，体をひねるためには，どうしたらよいかを質問します。今やってて，もうすでに気がつくことがいっぱいあると思う。今，足をひねりなさいというだけで気がつくことがあると思うけど，跳びながら，それを考えてみてください。今先生が，みんなに要求していることは，振りあげ足を外へひねることによって，体がこちらをむく。ひとつ教えてあげた。これ以外に，もうひとつ，どこかで，何かをすると，体をじょうずにひねれる。これを跳びながら，あるいは，できる人，うまい人は，何が影響しているのか，考えながらやってみて下さい。あとで聞きます。ハイ，それじゃ，先生が1本だけ見本をみせます。あと練習にとりかかりなさい。（4分40秒）

☆生徒の印象に残った言葉

- 上記の教師の言葉（導入時の言葉）　4名
- 展開時の教師の言葉　20名
- 整理時の教師の言葉　13名
- その他（課題に全く関係ない注意の言葉等）3名

10月15日（水）第3限　中3男子　42名

教材――50mハードル

課題「ハードリングの振りあげ足をまっすぐ前に」

＜導入部の教師の言葉＞　省　略

☆生徒の印象に残った言葉

- 導入時の教師の言葉　27名
- 展開時の教師の言葉　9名
- 整理時の教師の言葉　4名
- その他　2名

10月17日（金）第5限　中1男子　41名

教材――走り幅とび

課題「長い距離を跳ぶためには，何に気をつけたらよいか」

＜導入部の教師の言葉＞

こら，遅いことはだれでもやるゾ。幼稚園の子とは違うぞ。しっかりやらんか，早よ。忘れ者！（ケツバット）まだ，ジャージはだめだよ。寒かったら，はおって出て来るのはかまわないけど。

きょうは，1回目に，ウォームアップのあと走り幅とびの記録をまずとります。それが済んでから，もう一度集めて，今日やることを言います。（ウォーミン

グアップ）（走り幅とび記録の測定）はやく！先生の前へ来てすわれ。また，しゃべっとる！ハイ，今の記録，先生が聞いていると，非常に成績が悪い。

最初だから，しかたないということでスタートするけど。走り幅とびというのは，長く跳ぶんだよね。遠くへ跳ぶんだよね。そうでしょ。今から10分ぐらいの間に，何回も，1人5回以上は跳んでください。記録は計りません。今，計った記録は，立ち幅とびのだいたい2倍ぐらいの記録しかない。最終目標，立ち幅とびの3倍！そのために，今日，今からの10分ぐらいの間どうやったら，たくさん跳べるようになるか，それを考えながら練習して，最後に，みんなから発表してもらいます。考えながら，1人5回以上は練習してください。わかったな。（3分15秒）

☆生徒の印象に残った言葉

・上記の教師の言葉（導入時の言葉）	22名
・展開時の教師の言葉	2名
・整理時の教師の言葉	15名
・その他	2名

前記（3年は省略したが）の導入部の教師の言葉をみてもらえば，わかるように，実は，意図的に3種類の違った言葉から授業に入ることを試みた。2年は，時候のあいさつの言葉から入る，3年は，直接課題の言葉から入る，1年は，注意・叱責の言葉から入るのである。

本来なら同じ対象生徒に3種類試みて，考察するのが好ましいと思うが，時間的余裕に欠けて，違う対象生徒になってしまったことを深く反省している。

結果の予想としては，2年＞3年＞1年のつもりであったが，授業後の生徒の印象からも，教師の感想からも，1年＞3年＞2年と，全く逆の結果が出たような気がする。また，前項で述べた，教師の言葉の傾向とは一致しない結果になったようで，残念だが，本校生徒の実態から推察すると，導入部では，生徒に，いかに教師の話を聞かせるかということに，根本的問題があり，言葉の中味はその次であるということの，あらわれではなかろうか。しかし，これで片づけてしまうと，研究はストップしてしまうので，もう少し，各時間について考察を加えてみる。

まず，2年生の傾向は，展開時の教師の言葉が圧倒的に多かった。それも個人的に投げかけた言葉（示唆や賞賛，具体例：「今のが一番うまくいった」）であった。このことは，後でふれる1時間の授業構成の上で，重要な意味をもっていると思う。この時間でとても残念に思っていることは，導入時の言葉で必ず覚えていてくれて，何人かの生徒は，きっと書くだろうと予想して発した――線の「ライダーキック」を，だれひとりとして書いていなかったことである。

3年生では，導入時の言葉が多くなっているが，必ずしも導入時とは言いきれない部分がある。一応，生徒の記録の中から「振り上げ足」のことのみ書いてあるものを導入時の言葉として集計した。なぜ，このように弱気な解釈をするかというと，整理時に，まとめとして，教師が今一度話しているからである。同じことが，1年生でも言える。3年生では，導入時にペアの学習のし方を，繰り返し説明したにもかかわらず，たったひとりのみ「ペアを作る」と答えていただけである。

1年生では，――線部の言葉が記録からでてきた。また～～線部の「立ち幅とびの3倍」が18名の生徒の答えからでてきた。

(2) 今までの学校生活の中で

『みかんは，どちらからむいて食べるのが，正しいか，みなさん知っていますか』『上からむくのが，指が少し痛いですが正解です』『なぜかというと，皮をむくと同時に，中の袋の周囲についている白いすじも皮とともにとれてしまって，すぐ食べることができ，とても合理的だからですよ』

突発的に，ここでなぜ，この言葉を書いたかというと，今回の研究へ私自身をかりたてた原因とでもいうべきか，動機とでもいうべきか，その種の言葉であるからである。

どうでもいいような内容の言葉ではあるが，私が，小中高大と学生生活して来た（16年間）中で，校長先生から聞いた話で唯一覚えている言葉（話）である。もちろん当時の校長先生は，他の重要な事項を私達に判らせようとして，話された内容だったのだろうが，それまで，みかんの皮を反対の下からむいていた生徒にとっては，とても印象深く残っているわけである。現在でも，みかんを食べるたびに，校長先生を思い出し，教えられたように，固い“へた”のついた方から皮をむいている。

日々，教育活動をしている私達教師にとって，いついかなる時でも，生徒に前述のような影響を与えるチャンスはあるわけである。しかし，生徒側からみれば，あの時の○○先生は，いい先生だったという感想は持っていても，○○先生の言葉として印象強く残っている言葉というのは，現代の生徒でも，意外と少ないのではないだろうかという予想は容易につく。

したがって，ここで，今までの学校生活の中で教師から聞いた言葉で，今でも覚えているものにはどんなものがあるか，探ってみることも，今回の研究テーマに何らかの形で迫ることになるのではないかと思い，次の様なアンケート調査を，高校3年生39名と中学2年生82名に行ってみた。

（アンケート）

<質問>
あなたにとって，今までの学校生活（小・中・高）の中で先生（担任，教科担任，校長先生，部活顧問等）から聞いた（言われた）言葉で，今でも印象に残って覚えている言葉がありますか。
<答え>
1. あ り ま す
（ア）どんな言葉ですか
（イ）それは，いつ（ごろ）ですか
（ウ）どんな時ですか［例，授業中○○をしていておこられた時，のようになるべく詳しく書いてください］
（エ）だれが言った言葉ですか
2. あ り ま せ ん
中・高　年　組
氏名

☆アンケート結果の集計

	中2男	中2女	高3男	高3女	計
1.あります	28	35	11	21	95名
2.ありません	12	7	7	0	26名

（ア）内容

	中2男	中2女	高3男	高3女	計
格言的内容（ことわざ）	5	6	1	3	15名
訓示的内容（朝礼・ＨＲ）	11	18	3	10	42名
身の上話的内容（ユニークな）	1	1	1	3	6名
注意（叱責）的内容	11	10	6	5	32名

※私が答えた様な内容は，上記「身の上話的内容」の項に集計したが，思ったほど多くなかった。訓示的内容・注意的内容は別項目にはしにくい部分を感じながら集計した。とにかく，この二つで80％程を占める。

（イ）いつごろ

		中2男	中2女	高3男	高3女	計
小学校	1・2年	1	2			3名
	3・4年	4	4			8名
	5・6年	13	18	3	4	38名
中学校	1年	3	6	2	1	12名
	2年	6	4		1	11名
	3年			3	8	11名
高校	1・2年				4	4名
	3年			2	2	4名
不明		1	1	1	1	4名

※小学校６年と中学校３年での印象が非常に多い。これは，卒業という人生の節目の年で感傷的な状況のもとでの教師と生徒・児童という関係から生じた結果であろう。この点を割りびいて考えると，他の学年で覚えている言葉について考察を要すると考える。

（ウ）どんな時に

	中2男	中2女	高3男	高3女	計
行事(卒業式など)	4	2	2	2	10名
学活・道徳	7	12	2	2	23名
教科の授業中	4	10	1	8	23名
部　活	2	3	1	1	7名
時間に関係なく個人的	11	8	5	8	32名

※個人的に投げかけられた言葉に対する印象の深さに驚かされる結果が，数字の上であらわれていることは前に書いた中２の授業の記録と似かよった結果である。

（エ）だれの言葉

	中2男	中2女	高3男	高3女	計
担　任	15	23	6	8	52名
教科担任	3	6	1	12	22名
校　長	3	1	1	1	6名
部活動顧問	3	3	1	0	7名
そ の 他	4	2	2	0	8名

※このアンケート結果を，傾向的に逆にたどっていくと，担任及び教科担任が，生徒へ与える影響は非常に強く，授業（学活・教科）ばかりでなく，学校の一日の生活で，個人的に話しかけたり，個人的に指導した「言葉」が生徒にとっては，強く印象に残っていると言えるのではないか。

Ⅳ．本校の他教科にみられる導入の工夫

本校研究部から，全体テーマ（学習意欲）に関して記述式アンケートが，本校全教官に冬休みの課題として課せられた。その時に，我々授業研究グループも便乗して，次のような質問項目を追加してもらい，全先生方から答えてもらった。そのうちでも，今回のテーマに沿った内容が答えられていたものが２～３あったので，まず列挙してみる。

質　問
御自分の教科で，生徒の学習意欲を高めるために「導入」部分で工夫されていることを，より具体的にお書き下さい。

① 英語科Ｋ先生

・「工夫」とは言えまいが，自分自身の独断と偏見にに固まった本音を授業の「枕」に使うと，存外，お

もしろがって聞く。その後授業がうまくいくことがある。

② 英語科Y先生

・新出文法事項の導入の時に，できるだけ日本語を用いずに，ゼスチュア・絵・物を使って，英語の音と意味を結びつける。

③ 理科M先生

・導入で心がけることは，具体的な自然現象を見せて全員の問題意識となるように，なるべく簡単な言葉で，問題提起を行うようにしている。

※いずれの場合も，導入部の工夫で，期せずして無意識のうちに（失礼にあたるかも）「言葉」について述べている内容である。

次に，解答の中で方法的な工夫の中でも，とりわけ教師の「言葉」が重要な意味を持つだろうと思われるものを，1つとりあげ，その先生に，導入部の言葉を実際に示していただいた。

④ 社会科K先生

・その日の結論にあたる部分の教科書（3行程度）を朗読させる。そして、結論に含まれる矛盾について質問する。

仮想授業記録

「ガヤ，ガヤ。ワイワイ」
『58ページ』（大声で）
『最後までしゃべっている子に読んでもらう』
「シーン」
『○○君，58ページ，憲法の改正のはじめから5行目まで読んで』
「（朗読）……憲法の改正は，法律の改正以上にきびしい手続きを必要としている。」
『きびしい手続きを国会でしないで，憲法を変える方法がある。何だろうか？』
——中3，公民，テーマ「議会制民主主義の意味・クーデターの可能性」——

V．導入部で使用するのに最も適した教師の言葉は？

<授業記録>

中1保健「健康なからだ」　　授業者：飯島幸久

教師の働きかけ（発問）	生徒の答え（反応）
1.みんなは，今，健康ですか	1.（ウーンと考えこむ）
2.A君，どうかな	2.（A君）……
3.じゃあ，A君，君が街中を歩いていたとするよ，そこへテレビのレポーターが君に近づいてきて，「あなたは，今健康ですか？」と，聞いてきたとしたら，どう答えるかな	3.（A君）「ハイ」と答える
4.どうしてかな	4.（A君）病気にかかっていないから
5.では，B君は	5.（B君）「イイエ」と答える
6.どうして	6.（B君）かぜをひいているから
（数人に同じ質問をする）	（数人が同じように答える）
7.それじゃ全員が「健康」と答えたことにしよう。そのあと，レポーターが「どうしてですか」と尋ねてきたことにして，全員がその答えを答えることにするよ。1分程，答えを考えてみて。	7.（ワイワイ，ガヤガヤ）

（以下省略）

これは，私が保健の授業を受け持つ時に，1年生の最初におこなう授業の導入部分の記録である。このあと必ず生徒は盛りあがり，いろいろな答えを答えてくれる。それらの全てを板書してやり，1時間の終わりに「健康について考える時，からだの健康ばかりでなく，こころの健康についても考えなければいけない」と，いうことに気づかせるわけである。

方法的に，生徒の発表を板書したことが，好結果に結びついたといえるだろうが，今回注目したいのは，授業記録——線部の教師のことばである。生徒をより現実的な場面にひきこむのに役立ち，答え易い環境をつくりだすのに効果的な言葉であったことが推察できる。

また，Ⅲの(1)で私は，かなり残念そうな文章を書いたが，逆にいうと，導入時の言葉しか覚えていないということは，1時間の学習結果としては好ましいことではないことになろう。ただ，今回のテーマから，導入時の教師の言葉に，工夫をみつけようとすると，中1の授業での「走り幅とびは立ち幅とびの3倍はとべ」という言葉である。この言葉も，具体的数値を示したことにより，生徒にその時間の課題をわかりやすく伝えたことになり，生徒が意欲的に取り組むのに役立つ言葉だったといえよう。

このように，Ⅱ～Ⅳまでいろいろ述べてきたが，それぞれについて，検証的なことは何ひとつとしておこなってないことに，抵抗を感ずるが，以下に結論めいたことを書くことのお許しをいただきたい。

教師の側から，これが「工夫」だと思って「言葉」

を選んでみても，生徒の側からは，それがそのまま日頃の授業とは違うということに気づくことは，言葉だけに限って考えれば，まず不可能に近いということがわかった。Ⅲの(1)での中２の授業での「ライダーキック」の件が顕著にあらわれた事実であろうし，３種類の導入の試みの結果であろう。

今までの結果や事実を全般的にながめ考察すると，「工夫」と思って，研究にのぞんだ私としては，誠に遺憾な思いであるが，ここに実感として浮かびあがったことは，『生徒は，授業でより高まりたいという願望を持っている。そのことを，教師は頭において，生徒に課題をより具体的に，認識させ得る，あるいは，課題へ導くことのできる課題に直結した「言葉」を導入部分では考えて使用することが，最も大切である』ということになる。

また，生徒の側から，教師の「言葉」に対する印象の強いものは，個人的にかけられた言葉，全体的にかけられた言葉でも，注意や訓示的内容に対するものが多い。このことは，導入部でも利用できることだが，どちらかというと，１時間の授業全体で常に，教師は頭においていなくてはなるまい。もう少し付け加えると，教師の言葉が，生徒個人に与える影響は，かなり強い。それだけに，我々教師は，生徒ひとりひとりを理解し，個人的に投げかける言葉はもとより，全体に投げかける言葉の場合でも，生徒ひとりひとりを頭に描きながら授業をすることが，いかに大事なことであるかが理解される。

Ⅵ. お　わ　り　に

研究・実験とはとても言いがたい内容であったが，“はじめに”で述べたように，自分自身の日頃の授業の見直し，また，日頃から考えていた「教師の言葉」についての考察のほんの入口にたどり着いたような気がしている。

今回の研究では，言葉に限った考察をすることに無理があったのではなかろうか。導入の工夫には，やはり方法的なものが前提条件としてあり，その方法を，より生徒に認識・把握させるために「言葉」があるわけで，方法論を切り離して，言葉のみに焦点を合わせたことに，結果的には，今ひとつ目新しい結論が出てこなかったのではないだろうかと反省している。

また，「言葉」について考える時，教師のテクニック・資質（性格）の問題，教師と生徒のその日の精神的状態が大きく影響するなど，普遍的な結論を引き出すには，かなりむずかしい部分があることも理解している。

自分としては，今まで，導入の教師の言葉の工夫として，生徒の心に，容易に受け入れられるだろうと思い，「ユニークな言葉」を投げかけることと考えていた。実際には，生徒にとって余り好結果をもたらす程の作用をしていなかったことを，今研究では知らされたことになるが，前項で述べたように，課題と直結した「ユニークな言葉」を，今後工夫し，考察していくことは，無駄ではないと確信し，今後の研究にゆだねたい。

最後に導入部分の言葉に限らず，１時間の授業中に発する教師の『言葉』というのは，くどいようだが，生徒に与える影響は大変大きいものがある。授業は，教師と生徒とでつくりあげている教育的営みである。両者が分かりあえる関係を日常つくりあげ，なおかつ教師が「言葉」というものに，その重さを日頃から考えて取り組んでいれば，極端に言って，それがどんな内容であっても，生徒には，受け入れられるはずである。そういった意味でも，私たち教師は，指導内容に対する教材研究ばかりでなく，どんな言葉を生徒に投げかけたら，どんな反応が返ってくるのかという予想をたて，教師の言葉を中心にした授業計画を，事前に構成しておくことが，よりよい授業をつくりあげていくためには，必要なことであろう。

以　上

昭和62年11月14日

研究協議会発表要項より